



<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大学図書館問題研究会京都支部 第 34 回京都支部総会のご案内

大図研京都支部会員の皆様へ

支部総会を下記の要領で開催します。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

記

日 時：2011 年 7 月 30 日(土) 11:00～12:00

会 場：京都市国際交流会館第 1 会議室（地下鉄東西線蹴上駅下車 徒歩 6 分）

大図研京都ワンディセミナーのご案内

「伝える技術を磨こう～比較文化の視点で発信力アップ!～」

日 時：2011 年 7 月 30 日(土) 13:30～16:45

会 場：京都市国際交流会館第 1 会議室（地下鉄東西線蹴上駅下車 徒歩 6 分）

講 師：松中みどり氏（アジアセンター英語講師、アルク教育社講師、
ピナツボ・アエタ教育里親プログラム代表）

参加費：大図研会員は無料 / 非会員は 500 円

概要・お申し込み方法等は、p. 11 をご覧ください。

[目 次]

大学図書館問題研究会京都支部第 34 回京都支部総会のご案内	…	1
大学図書館問題研究会京都支部第 34 回京都支部総会議案	…	2
京都支部委員の募集について	…	6
書評 櫻田忠衛著「経済資料調査論の構築：京都大学経済学部での試み」	堤 豪範	… 7
「平成 23 年度関西 MLA 名刺交換会」実施報告	岡部 晋典	… 8
Web サイトやブログをお持ちの方、京都支部の Web サイトからリンクを張りませんか？	…	10
大図研京都ワンディセミナーのご案内	…	11
京都支部 Twitter アカウント「daitokenkyoto」をフォローしませんか	…	11
大学図書館問題研究会第 42 回全国大会のご案内	…	12

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大学図書館問題研究会京都支部第 34 回京都支部総会議案

【第 1 号議案】

2010 年度 (2010. 7 ~ 2011. 6) 活動総括および

2011 年度 (2011. 7 ~ 2012. 6) 活動方針

1. 2010 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2010 年度は、2 回以上のセミナー開催を年度目標とし、実現しました。2010 年 12 月に開催した大図研京都ワンディセミナーでは、障害学生支援をテーマに京都大学及び立命館大学の実践例をご報告いただき、参加者アンケートでも好評をいただきました。また日程調整の関係上、2011 年 7 月の開催となりましたが、「伝える技術の向上」をテーマにしたワークショップ形式のセミナーを企画しました。

セミナーでは、従来、参加者との協働を目的に当日準備担当を募っていましたが、今年度は、企画実施全般における有意義な経験の共有等を目的に、支部委員以外のスタッフを募集しました。これに 3 名の応募を得て、7 月開催のセミナーでは、立案段階からの協働を行いました。

広報については、メーリングリスト等への周知、京阪神の大学図書館等へのチラシやメールでの案内、Twitter アカウント「daitokenkyoto」による発信などを展開し、参加者数の増加を図っています。また、あらたな会場での実施、適切な参加費設定の検討などよりよい運営の検討を進めています。

1) 大図研京都ワンディセミナー「障害学生支援の新たな潮流：大学における障害学生支援課題と図書館の実践報告」

日時：2010 年 12 月 18 日 (土) 13:30~16:45

講師：村田 淳氏 (京都大学身体障害学生相談室相談室員)

河野恵美氏 (立命館大学教学部共通教育課サービスラーニングセンター障害学生支援室主事)

丸山浩史氏 (立命館大学図書館サービス課)

場所：京都私学会館 205 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

参加者数：40 名

2) 大図研京都ワンディセミナー「伝える技術を磨こう：比較文化の視点で発信力アップ！」

日時：2011 年 7 月 30 日 (土) 13:30~16:45

講師：松中みどり氏 (アジアセンター英語講師、アルク教育社講師、

ピナツボ・アエタ教育里親プログラム代表)

場所：京都市国際交流会館 第 1 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

公募企画チーム：久保山健 (大阪大学附属図書館)・三本木彩 (京都大学文学研究科図書館)・田中翔大 (立命館大学図書館)

(2) 支部報

発行期日の遅れは生じましたが、計画的発行に努め、所定の号数を発行しています。くわえて、小特集としてイベントについて複数の寄稿を得たり、あらたな連続記事として「わたしの図書館紹介します！」を開始したりするなど、紙面の充実を図っています。

なお、会員はもとより非会員からも幅広く寄稿していただきましたが、会員に「発表の場を提供する」という目標の実現は、引き続いての課題です。

また、バックナンバーの電子化・保存のプロジェクトを継続して実施しました。これにより 151 号以降を欠号なく揃え（初号から 150 号までは CD-ROM 化済）、電子化するとともに、国会図書館への納本を実現しました。併せて、支部サイトでの公開を目的に、著作権者への周知を行いました。現在、支部サイトの過去発行号目次の遡及入力を完遂し、ここにスキャンした各号を掲載する準備を進めています。

今年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No. 277 (2010/08/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第 33 回京都支部総会を開催しました
- * 2009 年活動総括および 2010 年活動方針
- * 2009 年度決算案および 2010 年度予算案、会計監査報告
- * 2010 年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- * 大学図書館問題研究会第 33 回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- * 大図研京都ワンディセミナー参加報告：大学教育改革のただ中、図書館員の『営業』的アプローチとは（安藤 誕）
- * 大図研京都ワンディセミナー参加報告：教員と連携して効果的な情報リテラシー教育を実現するために（梶谷 春佳）

2) 支部報 No. 278 (2010/10/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- * 支部委員挨拶
- * 第 41 回全国大会報告
- * 大図研京都支部忘年会のご案内

3) 支部報 No. 279 (2010/12/15 発行)

- * 支部報バックナンバー電子化に伴うお願い
- * 小特集：kulibrarians vs Lifo 決戦！京都冬の陣 kulifo 参加報告（八木澤ちひろ）
- * 小特集：kulibrarians vs Lifo 「ku-librarians vs Lifo」こぼれ話（光森奈美子）
- * 「第 11 回図書館総合展 L-1 グランプリ」参加報告 図書館総合展 L-1 グランプリに参加して（長坂和茂）
- * 移転はつらいよ～経験と失敗より（野間口真裕）
- * 原稿執筆と生みの苦しき（池田貴儀）

4) 支部報 No. 280 (2011/02/15 発行)

- * 関西 3 支部新春合同例会のご案内
- * 小特集：大図研京都ワンディセミナー参加報告～大学図書館としての障害学生支援を考える（三本木彩）

- * 小特集：大図研京都ワンディセミナー参加報告～「できることから始めよう！」
ー2 大学の取組事例ー (藤山優美)
- * 小特集：大図研京都ワンディセミナー参加報告～広がりを見せる障害学生支援について (日置将之)
- * 連続企画:わたしの図書館紹介します！紹介番号1 京都大学工学研究科桂地球系
図書室 (坂本拓)

5) 支部報 No. 281(2011/04/15 発行)

- * 関西3支部新春合同例会 終了しました
- * 大学図書館問題研究会 関西3支部新春合同例会「めざせ！図書館発、USTREAM 中継！」参加報告 (水野翔彦)
- * 資料保存動画作成過程～思想と方法について (長坂和茂)
- * 次回ワンディセミナーの予告

6) 支部報 No. 282(2011/06/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第34回京都支部総会のご案内
- * 大学図書館問題研究会第34回京都支部総会議案
- * 京都支部委員の募集について
- * 書評櫻田忠衛著「経済資料調査論の構築：京都大学経済学部での試み」(堤豪範)
- * 「平成23年度関西 MLA 名刺交換会」実施報告 (岡部晋典)
- * 大図研京都ワンディセミナーのお知らせ
- * Web サイトやブログをお持ちの方、京都支部の Web サイトからリンクを張りませんか？
- * 大図研京都ワンディセミナーのお知らせ
- * 京都支部 Twitter アカウント「daitokenkyoto」をフォローしませんか
- * 大学図書館問題研究会第42回全国大会のご案内

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。2011年6月30日現在、10,215アクセスを得ています (アクセスカウンター設置：2006年8月22日)。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.108 (2010年7月2日) から no.125 (2011年6月2日) を発行しました。支部委員会議事録、支部企画案内等を随時送信することで支部活動をお知らせするとともに、月1回のイベント案内を定期的に発行し、好評を得ています。

(4) 組織活動

会員数は、2011年6月30日現在65名で、2010年度当初の現勢を維持しています。また、セミナー案内チラシへの入会案内同封や個別の勧誘等を積極的に行うなどして、あらたな会員獲得に努めています。

(5) 財務

昨年度に引き続き、会費納入率の向上に努めています。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、低い未納率も維持しています。なお、各年度の未納率は次のようになっています。2007年度1%、2008年度3%、2009年度6%、2010年度10% (2006年度以前は0%。休会扱い1名を含む)。

(6) その他

全国大会では、支部会員から意見を募った上で大図研の運営改善等に関する提案を行いました。また、大図研 Web サイトの更新プロジェクトについても提案を行っています。

また、例年どおり「大学の図書館」の1号の編集を担当し、5月号（特集：図書館員の外国語事情）を作成しました。

2. 2011 年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成と交流に役立つため、セミナー等を2回程度、開催します。また、積極的な参加と交流の実現のため、セミナー企画段階からの参加募集の試みを継続します。適切な参加費設定の検討も引き続き進めていきます。なお、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

(2) 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。また、自己啓発や会員間交流の場としての支部報のみならず、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう引き続き努力します。また、電子化したバックナンバーの支部サイトへの遡及掲載作業を進めます。

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、Web サイトを随時更新します。とくに支部報記事の電子化による積極的な公開や会員リンクの充実など、コンテンツの拡充と会員間コミュニケーションの促進を一層強化します。また、メールマガジンの定期的な発信を継続するとともに、Twitter アカウントの積極的活用を模索します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーをはじめあらゆる機会をとらえ、関連組織への広報の実施と入会の勧誘に努めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供等、充実した支部活動を行います。

(5) 財務

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を行うことで、会費納入率を維持します。また、長期滞納者を作らないため、滞納の兆候が見られた段階での積極的な督促を行います。なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、有料の講師や連続セミナー等に向けての積立金を作成するなど、研究交流活動の一層の充実策を引き続き検討します。

(以下の議案は当日配布します)

【第2号議案】2010年度決算報告活動総括 及び 2010年度予算及び会計監査報告

【第3号議案】2011年度支部役員選挙

京都支部委員の募集について

京都支部では、2011年度(2011年7月～2012年6月)の京都支部委員を募集します。支部委員会では、企画を実現したり、webサイトや出版物を作成したり、組織管理をしたりといった日常の仕事ではできない経験とともに、組織を超えた人とのつながりを得ることができます。私たちといっしょに活動して下さる方を待っています。詳しくは以下をご覧ください。

1. 募集対象 京都支部会員の方

2. 募集期間

2011年7月1日(金)～7月25日(月)

3. 活動内容

- ・支部委員は各自以下にあげる担当を分担します。

支部長：連絡調整等

副支部長：支部長の補佐

全国委員：大学図書館問題研究会全国委員会への出席(年数回・東京)。全国大会での分科会運営

研究企画：セミナー等の企画立案(実施にあたっては、広報等事前準備から当日の運営まで、全支部委員で行います)

支部報編集：「京都支部報」記事の企画と編集

支部報印刷と発送：支部報の作成。その他広報物等の発送

メールマガジン：メールマガジン「yurikamome」記事の作成と送信

WebサイトとML：京都支部webサイトの作成と管理運営。支部Twitterによる情報発信。支部委員会連絡・アーカイブ用サイトおよびMLの管理運営

組織・財務：会員現勢管理。会費徴収。支部活動に関する収入支出管理

「大学の図書館」編集：全国誌「大学の図書館」京都支部担当号の企画と編集

- ・支部委員会は、2ヶ月～3ヶ月に一度、開催します。現在は京都大学で行っています。それ以外の連絡調整は、MLを使用しています。支部委員会の活動内容は、京都支部サイト左側メニューにある「活動日誌」および「支部委員会」もご覧ください。

4. 応募・問合せ先

応募のお知らせやご不明な点の問い合わせなどは、京都支部メール：kyoto@daitoken.com またはお近くの支部委員までお願いします。

書評 櫻田忠衛著「経済資料調査論の構築：京都大学経済学部での試み」

文理閣 2011.2 (ISBN:9784892596445)

堤 豪範

これは、38年間京都大学経済学部調査資料室という資料提供の現場で、統計学研究をおこないながら、資料と利用者に密着して教育・研究支援の仕事をしてきた著者の集大成の書である。同じ大学の図書館に働いていた者にとっては「これぞ大学図書館員必携！」という思いで一気に読んでしまった。

ここで述べられているように、京都大学経済学部・大学院経済学研究科は図書室とは一線を画して資料調査室がある。資料そのものを調査研究の対象にして、大量に生み出される経済資料を体系化、組織化し、歴史的意味を付与して提供してきた。そして、経済学、経営学の研究に必要なデータや文献の調査方法を教えるための講座、「経済資料調査論」を担当している。経済学・経営学を学び研究する学部の学生・大学院生にとっては一般的な図書館ガイダンスに限界があるところから定期的な授業として実施されているものである。このように経済学・経営学に関する文献調査、情報資料収集が講義として制度化されているのは日本の経済学部、経営学部のある大学では初めてのことである。受講生の感想が紹介されているが、韓国のある教授から、このような授業はまだアメリカにもないと評価されている。

本書の内容は①統計資料論②経済雑誌論③経済資料論と3部構成になっている。統計資料論では著者のライフワークであった統計実務家小島勝治の統計研究についてと明治前期日本経済統計書誌の編纂、そして人事院の調整手当見直しにおける統計利用の批判など政府統計批判とその利用について論述されている。経済雑誌論では現場にある雑誌資料、「経済論叢」の前身である「法律学経済学内外論叢」、「京都法学会雑誌」、何とあの帝国大学時代から「経済学研究が世界の平和に寄与すること」と明記されて発行された欧文紀要「Kyoto University Economic Review」について書かれている。経済資料論では小島勝治の旧蔵書と河上肇直筆の檄文の軸装が受け入れられ、ここから檄文の書かれた時期についての調査が報告されている。

はじめに紹介した講座「経済資料調査論」については主に次のように述べられている。一つはオンライン・データベースの量と質の問題である。情報は瞬時に得られるが、膨大な量の中からの的確な情報を得るにはどうすればよいのか。二つ目は問題意識→情報資料収集→過去の蓄積された成果→問題意識の深化・鮮明化→情報資料収集→分析・考察→論文作成→公表、研究成果の生産となる研究過程の中の技術的過程（情報資料収集と論文作成）を研究対象にすることを明確にした講座としていること。最後に、情報デジタル化の急速な進展の中で激変している教育・研究に対応しきれていない状況とそれを担う教育・研究支援職員の養成とその役割が十分認識されていない現状を述べ、残された課題であるとして締めくくられている。

1980年代、大学図書館問題研究会が真の専門職をめざして掲げた研究実践が「資料研究」であった。しかし、様々な状況から継続されず進展は見られなかった。この著書は経済分野における具体的実践の貴重な記録である。日常業務の中で現場の資料を知る努力とそれを踏まえた利用者教育が出来てこそ真の大学図書館員と言えるのではないだろうか。大学図書館問題研究会のみなさん、この著書を手本、参考に、今こそ、古くて新しい課題「資料研究」を再開させる時ではないでしょうか。なぜなら自分が働くどんな図書館でも資料の山であり、図書館職員のレベルアップにつながる「資料研究」のための宝庫だからです。

つつみ ひでのり（元京都大学附属図書館）

「平成 23 年度関西 MLA 名刺交換会」実施報告

岡部 晋典

去る 4/16 (土) に関西 MLA 名刺交換会と銘打って会合を行った。主目的は新たに京都を中心とする関西方向に赴任した教員や職員とコネクションをつくることである。MLA と言いつつも、蓋を開けてみたら A と L しかいなかったというのはご愛嬌である。M からいらっしゃる予定だった参加者の方は残念ながらぎっくり腰で不参加であった。

経済的資本のない若手の強力な武器となるのは、社会関係資本である。これは平たく言ってしまうと「人々との人間関係」であり、これがあるのとないのでは生産性から信頼性まで大きく異なるとされている。これを重点的に論じたパトナムの『孤独なボウリング』やギデンスの一連の議論などを紐解くと…。と、ここまで書いてみたがどうにも肩がこるので、もう少し平たく今回の話を紹介していこう。関西ならではのノリの良さに裏打ちされた、人付き合いの楽しさと、それゆえの関西図書館圏の総合的な厚みについて記していきたい。

言いだしっぺは人文情報学をフィールドとして活躍されている當山日出夫先生である。彼が Twitter で筆者を焚き付けてくれたのがきっかけである。拒否する権利もつもりも全くない。というのも、筆者自身が昨年度、同じような名刺交換会で大変に救われたからである。実行してくださったのは株式会社アカデミック・リソース・ガイド (ARG) の岡本真氏である。筆者は昨年度、大阪の女子大学に着任したわけであるが。放りこまれた状況は今思い出しても、なかなか辛いものであった。周りは関西弁だらけで異星人もかくやであるし、お作法もわからない。道頓堀を標準語で喋りながら歩いていたらタコヤキマシンガンで射殺されると信じていたくらいである。

このような右も左もわからない状況での名刺交換会は本当にありがたいものであった。あの会で知り合うことのできた方々とも未だに懇意にさせていただいているし、多くの研究上の手助けもしていただいた。前年の名刺交換会は筆者の勤務校の司書さんらを誘って行ったのだが、いつのまにやら筆者の知らぬうちに、前任校の司書さんらと国会図書館でルートが出来ていたようである。また、その結果、筆者の前任校の図書館がレファレンス協同データベースに参画することになり、人数不足にもかかわらず熱心に活動し、その結果、表彰されたりと、喜ばしい成果に繋がったことも報告しておくべきだろう。

昨年の名刺交換会を踏まえ、今年は筆者が企画を行った。とくに東京から皇學館大学に赴任された先生、つくばから千里金蘭大学に赴任された先生、また筆者の同僚にして史料ネットの副代表であり、東日本大震災で史料修復で活躍された先生をゲストとして据え、彼らに関西のライブラリアンらに紹介する試みを行った。

「いかにも」な場所のほうが関西に来た人には喜ばれるだろうとの祇園で決行した。祇園というと、スツールに座ったとたん尻の毛まで抜かれるというイメージがあると思うが、幸い、結構な安値で飲める店を知っていたので、そこを会場にした。ただ、祇園の隠れ家を銘打っただけあって幹事の筆者ですら当日店に行くのに迷って迎えに来てもらった事は秘密である。

詳細な広報は直前まで行わなかった。というのも大人数が予想されたのもあるし、基本的に関西のライブラリアンらはフットワークが呆れるほど軽い、ということが関西生活一年で学んだことであつたからだ。ただし、事前にハブ役となっているであろう人は何人かはピックアップしており、開催一週間前に彼らに直接「興味のあるような人に流してくれ」と依頼した。これが効いた。

開催数日前に Twitter を用いて広報を行った。案の定というか会場はあつという間に埋まってしまった。30 人までなら OK ですよ、と言質を店側から取り、いったん 27 人で

締め切ったにもかかわらず、その後、ちらちら「まだ席はありますか」とのメールが飛んで来て、そのたびに心配する次第であった。極めつけには別の研究会の打ち上げと何故か合流することになり、定員をオーバーすること 15 名。よろしいか。関西のノリをなめてはいけない。おかげさまで（特に名は秘すが）超一流のライブラリアン、彼が風邪を引いたら国の図書館政策が滞ると部下に口々に言われている方が、廊下の床で食事をとっているというなかなか見られない光景を目撃することができた。貴重であるが後で考えると冷や汗ものである。もう少し広い部屋を取るべきであった。この場を借りて皆様には謝罪する。過不足なく一言でいうと「カオス！」である。

これではただの酔っ払いの会合のようであるが、いやいやそんなことはない。資料と資料が、人と人がつながっていくのを見るのは未来への布石を打っているようで幸せである。資料レスキューの先生と、被災地の図書館、博物館、文書館、公民館を手助けする saveMLAK の内部の人がつながっていくところなど、往々にしてニヒリスティックになりがちな筆者をして心温まりかつ震えるほど見事な光景であった。客観的に見ればあまりアタマのいい会合ではなかったかもしれない。あるアーキビストはしばしば抱きついてくるので閉口するし、ある司書が素敵過ぎるので生きるのが辛いのだとさんざん男子高校生のような愚痴を聞かされた某氏よ、まことに申し訳なかった。なんだか、だんだん阿呆の会合のように思えてきたが、まあ事実なので仕方あるまい。アルハラだけには気をつけつつ、酒の飲めない人をも巻き込んで大騒ぎする MLA 名刺交換会、とりあえずはオモチロオカシク終わったのではないか。

筆者はあの光景を愛おしく思う。愛おしく思いつつ、筆者のような流れ者を受け入れてくれた関西図書館圏の懐の広さに感謝している。ただ、このようなノリが無意識的に関西図書館の底力に繋がっているが、これについてはそれほど参加者の皆、気づいていないようにも思われる。

現在、筆者は個人的な事情により、ある地方の公共図書館のアドバイザー的な立場になっている。その際には実に歯噛みすることが多い。「この図書館に話を聞きたいのだけれど」というケースがあった場合、関西図書館圏なら、誰かハブ役の人間にメールを一通投げて「つなげてくれ」と一言言えばそれで済む。これでつながらなかったことは皆無である。それが筆者がコミットしている地方では全くこの方法論が使えない。ネットワークがあるのかないのかすら外からは判断できない。となると正面突破で「お役所」を相手にしなければならない。この仕事量の膨大さ、投入するコストに対し得られる益の少なさについては想像してもらって構わない。いやむしろしてください。あ、なんだか涙が出てきた。

図書館コンソーシアムという考え方がある。高度化する図書館事情を鑑み、ある地方やある館種の図書館でまとまることである。これによって、無茶な仕事の振りをしてくる図書館外の部署や出版社に対抗したり、あるいは様々に困った事例があれば、それに対して知恵を持ち寄って解決することができる。ただ、図書館コンソーシアムといった、それほど大上段でなくてもいい。本音を言えば MLA 連携というのはそもそも論として現段階では難しく、MLA 交流であればいい、そんなゆるやかな考え方を今の筆者は持っている。

多分、肝要なのは、わからないときに適切に質問できる相手を常にピックアップしておくことだろう。ネットワークだの相互協力だのいう図書館屋が、秋深し隣の図書館はなにをする人ぞでは困るのである。その困った事例の極北が libraha…、いや、この話はこのあたりにしておこう。いずれにせよ、適切に仕事を投げる相手、適切に質問ができる相手がいるというのは幸せだし、これから（あるいはこれまでも）必須なのだと思感する。

だから筆者は、ささやかながら、この原稿を読みながら、興味を持っているけれど、

図書館横断系のイベントへの参加はハードルが高いなあ、と思っている人に（あなたのことですよ！）、心配いりませんよ、是非とも次は出てきてくださいよ、と応援をしたい。えんえんと書いてきたとおり、だいたい森見登美彦の小説の登場人物的な阿呆ばかりである。もちろん阿呆じゃない人も中にはいるようだが、全体の方向性をとると多分阿呆である。ただ断言できることは、あの場で通奏低音として流れていたのは「多様性」であり、あなたが否定されることは決してない。

今回の MLA 名刺交換会は二度目であるが、来年度もやることが決定している。幹事はもちろん、前年に着任し、名刺交換会で紹介させられた教員である。次の交換会は少なくとも前述のとおり三人ほど幹事候補がいる。この流れが延々と続いていけば、どれだけ楽しいネットワークが構築されるだろうか。今から楽しみである。

ともあれ触れざるを得ないのでここで触れておく。今回の会合で余談ながら心を砕いたのは、東日本大震災との関連である。というのも都内では花見が禁じられたり、各地で祭りが中止になったというケースが報告されている。あのようなセンシティブな時期に幹事をやる、ということは背筋がチリチリしたことも事実である。したがって言い逃れかもしれないが、店側に「被災地の酒を出してくれ」と交渉し、結果、宮城の酒を出してもらった。このような配慮は山火事に水鉄砲で立ち向かうようなもので、自己満足の誇りを免れないかもしれないが、しかし筆者のみならず参加者の「もしも」という心情を考えると、若干そうせざるを得ない風潮があるのも事実である。これはこれで何らかの内なる権力性があるのだとも解釈しうる。このように、いくつかの教訓を引き出しつつも大変面白い会が企画できたのは幹事冥利に尽きるとともに、流れ者を歓迎し、知り合いを作りたい人を後押しするこの会が続いていくことを心から祈る。

おかべ ゆきのり（近大姫路大学教育学部）

**Web サイトやブログをお持ちの方、
京都支部の Web サイトからリンクを張りませんか？**

同じ支部の会員でありながら、普段はなかなか交流の機会がなく、お互いがどんな人なのか分からない、ということはないでしょうか？

お互いの関心事などを共有していただき、会員交流の機会につながればと思い、支部会員リンクを設けています。ぜひ、この機会に会員交流の足がかりとして、ご活用いただければと思います。

また、自前のページをお持ちでない場合は、京都支部の Web サイトにページを掲載することもできます。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。詳しくは、次のページをご覧ください。

支部会員リンクの紹介

http://www.daitoken.com/kyoto/mlink_application.htm

現在公開中の支部会員リンク

<http://www.daitoken.com/kyoto/mlink.htm>

大図研京都ワンディセミナーのご案内

「伝える技術を磨こう～比較文化の視点で発信力アップ!～」

講習会での講師をしたり、上司・同僚・取引先への提案する場面などで、もっと上手く伝えられたらと感じたことはありませんか。

今回のワンディセミナーでは、スピーチや自分の考えを伝える際の留意点を講師に説明いただき、自分の「声」に意識を向ける実習を交えた参加型スタイルで行います。これらを通じて、プレゼンテーションやコミュニケーション能力を高めることを目指します。

お招きする講師は、英語の教師として比較言語、比較文化の立場からコミュニケーション力を指導してこられた 松中みどり氏 です。英語を手段としたスピーチ教育に長く携わっている方で、一般的なプレゼン講習とは違った視点を提供いただく予定です。また、実習の際には、ボイストレーニング・ボイスエクスペリメンテーションといったことを交える予定です。自分の「声」に注意を向ける機会は、あまりないのではないのでしょうか。これらを通じて、参加者の皆さんのコミュニケーション能力アップにつながられればと考えています。

日 時:2011年7月30日(土) 13:30～16:45

会 場:京都市国際交流会館第1会議室(地下鉄東西線蹴上駅下車 徒歩6分)

講 師:松中みどり氏(アジアセンター英語講師、アルク教育社講師、
ピナツボ・アエタ教育里親プログラム代表)

参加費:大図研会員は無料 / 非会員は 500 円

申込方法:事前申込制とさせていただきます。定員 30 名となっておりますので、以下をご参照の上、お早目にお申し込みください。

- ・大図研京都支部のサイトから、大図研京都ワンディセミナー申込フォーム (<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20110730.htm>)で申し込む。
- ・支部委員会(kyoto@daitoken.com)宛に、(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)仕事で英語を使う機会があるか否か、(5)懇親会に参加するか否か を知らせる。

終了後、懇親会を予定しています。

セミナーについて、ご不明な点などございましたら、京都支部支部(kyoto@daitoken.com)までお問い合わせください。

◆京都支部 Twitter アカウント「daitokenkyoto」をフォローしませんか◆

「daitokenkyoto」では、セミナーのご案内などをはじめ、支部報発行情報など、京都支部からの最新情報を発信しています。

<http://twitter.com/daitokenkyoto>

皆さまのフォローをお待ちしています。

大学図書館問題研究会第42回全国大会のご案内

今年の全国大会は、東京での開催です。この機会にぜひご参加ください。ご参加にあたっての不明な点などありましたら、どうぞお気軽に支部委員会 (kyoto@daitoken.com) まで、お問い合わせください。

なお、大会の詳細は「大学の図書館」30(6):2011.6を、また、参加お申し込みや大会についての最新情報は、第42回全国大会のWebサイトをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/dtk2011tokyo42/>

と き : 2011年8月27日(土)～29日(月)

と ころ : 北とぴあ(ほくとぴあ)

東京都北区王子1-11-1 Tel:03-5390-1100

<http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/facility/525/052549.htm>

参加費 : 6,000円(会員) / 7,000円(非会員)

※ 学生・非正規職員の方はそれぞれ上記の半額となります。正規・非正規は雇用の無期・有期で区分します(無職の方は対象外です)

※ 1日のみの参加の方は3,000円

懇親会費 : 5,000円

プログラム

■ 8月27日(土) 1日目

(12:30 -) 大会受付開始

(12:45 - 13:00) ウェルカム・ガイダンス(初参加者向けオリエンテーションです)

(13:00 - 15:00) 全体会(研究会の会務について話し合います)

(15:00 - 15:15) 休憩・ウェルカム・ガイダンス(12:45-と内容は同じです)

(15:15 - 16:45) 研究発表

(17:00 -) 写真撮影

(17:30 - 19:30) 全体懇親会

(19:30 - 21:30) 自主企画「地酒の会」

■ 8月28日(日) 2日目: 課題別分科会

(9:00 - 12:00)

(14:00 - 17:00)

第1分科会 大学図書館史

第5分科会 機関リポジトリ

第2分科会 利用者支援

第6分科会 ソーシャルメディア

第3分科会 図書館システム

第7分科会 図書館経営

第4分科会 リカレント

第8分科会 出版・流通

自主企画

(12:45 - 13:45) ビブリオバトル@dtk

■ 8月29日(月) 3日目: オープンシンポジウム

(9:00 - 12:00) 「震災そのとき、その後—震災と図書館について考える(仮)」

自主企画・施設見学(オープンシンポジウム終了後)

コース1「東京工業大学附属図書館大岡山本館」

コース2「東京大学経済学部資料室」

コース3「日版王子流通センター」

■ 8月30日(火)

自主企画「大阪支部企画見学ツアー」